

令和6年度 第1回甲賀市図書館協議会 会議録

1. 日 時：令和6年7月26日（金） 午後7時～午後8時50分

2. 場 所：甲南図書交流館 視聴覚ホール

3. 出席者：【委員】 大西 正泰 地村 千里 辻 聡 増田 定雄
山添 智子 松本佐知子 山崎喜代美 中村ひろ子
山中 ルミ 平林 秀樹
【事務局】 前田次長 伊東課長 香取館長 井口(敏)館長
井口(正)館長 篠原館長 片岡館長 小嶋主査 吉田主査
【傍聴者】 なし

4. 次 第

- (1) 開会
- (2) 市民憲章の唱和
- (3) 会長あいさつ
- (4) 協議事項
 - ①令和5年度甲賀市図書館活動報告について
 - ②令和6年度甲賀市図書館実施事業計画について
 - ③次期計画策定素案について
 - (1) 甲賀市図書館サービス計画第3次計画
 - (2) 甲賀市子ども読書活動推進計画第4次計画
- (5) その他

5. 内 容

- (1) 開会
- (2) 市民憲章の唱和
教育委員会事務局 前田次長あいさつ
事務局職員紹介
- (3) 会長あいさつ
 - ・図書館が舞台となった映画の話をする。
タイトルは「天使のいる図書館」という作品。
図書館のレファレンスサービスとは何かを、分かりやすく表した映画である。
奈良県北葛城郡広陵町にある図書館が舞台で、主人公である新人司書吉井さくらが周りの人々に支えられて成長していく物語。地元の観光協会が地域振興のために作った2017年の作品で、上映館が少なくあまり知られていない。
主人公のさくらは豊富な知識を記憶することはできるが、人の気持ちが分からず感情を表すことができない面があり、図書館サービスの一つであるレファレンスサービスを任されて苦勞する。少しの手がかりで本を探し出すことは得意だが、

「読んで悲しくなるような小説を教えてほしい」という依頼には応えることが出来ない。

人の気持ちが理解できない彼女は、小説を読み取れないからである。

そんなある日、さくらは図書館で見知らぬ老婦人に出会う。老婦人は古いスナップ写真の撮影場所を探しており、彼女は写真の背景を手がかりにその背景を調べ、なんと老婦人をその場所に案内するという、出張レファレンスサービスまでする。そのうち祖母と孫のように仲良くなったさくらは、老婦人の本当の願いが別にあることを知り、それを叶えてあげようと奔走し、最後にはその望みを叶えることができた。同時にさくらは、今まで封印してきた自分の過去の感情と向き合い、人の心を少しずつ理解できるようになっていくという、たいへん感動的な物語であった。

この作品の中心にあるのは「レファレンスサービス」という図書館の役割。

利用者が探しきれない本を見つけるという作業の背景には、単に本を見つけて紹介するというだけでなく、依頼者の心に寄り添いながらその人が本当に探している本を見つける必要がある。

映画の中で、館長が職員に語った印象的な言葉がある。

「レファレンスサービスで選んであげた一冊の本が、その人の人生を変えてしまうことがあることを、皆さんは心しておいてください。」

私はこの言葉に、レファレンスサービスの奥深さと難しさを感じた次第である。

(4) 協議事項

①令和5年度甲賀市図書館活動報告について

〔事務局から説明〕

委員：毎年正月の福袋を楽しみにしている。今年借りた福袋に入っていた本が、後日テレビでも取り上げられていて、図書館職員の方々の選書に感心した。
またギャラリー展示に参画した時には、広報誌を見て訪れてくださった方もおられ、ありがたかった。

事務局：そのような感想をいただき、励みになる。

委員：人口減少の中で人口一人あたりの貸出冊数は増えており、頑張っていることがわかる。

県内図書館のサービス水準のうち人口1人あたりの貸出冊数について、甲賀市と草津市が順位は一つしか変わらないが1冊以上の差がある。他の市町が順位差において0コンマ代であることからすると、1冊という差は大きい。その差の根本を分析して、縮められるとよいと考える。

事務局：人口は多いが図書館1館というところは、コンパクトに効率よいサービスが提供でき、数値も高い水準で表れやすい。一方、面積の広いところは複数の館で幅広いサービスを行うため、数値が出にくいということはある。

しかし、同じように複数の館を有しながらよい数値を出しているところもある。他の自治体のよいところを学び、サービス強化したいと考える。

ここで、湖南省市との相互利用について説明を加えさせていただく。
令和３年度から開始した相互利用の数値からは、それなりの利用をされていることが伺える。特に甲賀市の方が湖南省で利用されていることがわかる。
甲賀市内では、隣接する水口図書館の利用が多い。
通勤通学などそれぞれの都合で利用されているものと思われ、一定の効果があつたものと考えている。

委 員：湖南省市の石部図書館の動向はいかがか。

事務局：開館維持されており、その後の情報は聞いていない。

会 長：年齢別貸出冊数について、６０代からは一括りとなっており５０代との差や
６０代以降の年代別の利用者動向が分かりにくい。

事務局：たしかに仰せのとおり。システム上、把握が難しいのが現状である。

②令和６年度甲賀市図書館実施事業計画について

〔事務局から説明〕

（図書館事業継続のほか、図書館まつり開催や郷土資料室「忍」解説を説明）

会 長：図書館まつりは、市制２０周年、甲賀市図書館２０年の歩みを記念するイベントであり、協議会としてもぜひ協力したいと考える。

自身もビブリオバトルで協力する。皆さんもそれぞれのお立場で参加協力をお願いしたい。

委 員：１０月６日の図書館まつり当日は、地元深川区の八幡神社の秋祭りもある。

委 員：よい機会だと考える。地域の祭りと図書館のイベントを通じて、双方が行き
交い交流が図れる。

会 長：それはよい考え。図書館まつりも賑わうことだろう。

では協議会委員の協力について、事務局からの考えはどうか。

事務局：ビブリオバトル、おはなし会、対面朗読の体験について協力願いたい。

それぞれ内諾をいただいております、今後調整を進めさせていただく。

ここで対面朗読サービスについて、実際どのように行われるのかを知って
いただくために、委員のご厚意で実演をしていただけることになった。

数分、ご覧いただきたい。

（対面朗読：一対一で実演いただき拝見）

会 長：テレビで朗読シーンを見ることはあつたが、実際こうして生の声で朗読を聞
くと、その内容や風景が浮かんできて、実際にそれを体験しているような感
覚になった。やはり訓練された方の朗読は違う。ぜひ多くの人に体験しても
らいたい。

③次期計画策定素案について

(1) 甲賀市図書館サービス計画第３次計画

(2) 甲賀市子ども読書活動推進計画第４次計画

〔事務局から説明〕

委員：今年度は図書館まつりなどの目玉事業が予定され、最寄りの神社のお祭りも同日とのこと。地域の衰退を止めるためには、地域と共に出来る大きなイベントも必要。スウェーデンのストックホルムでは、図書館が地域イベントもしていると何かで読んだことがある。図書館が地域の拠点、地域の核として、地域の和を育むというプラス効果を生んでいる。

例えば甲南でいえば、やまなみ工房の作品展示なども効果的。地域とふれあい、互いの顔が見える取組みで、図書館に来てもらう手段を考えてはどうか。

会長：たいへん貴重な意見をいただいた。

図書館が地域とどうつながっていくか、とても大事なことである。

そうした意見を今後策定される計画に盛り込めるように進めていきたい。

そのためには、今日提示された資料をもとに改めて小委員会というかたちで意見を出し合う場を設けたい。

事務局：会長のご提案により、小委員会の場を設定する。

2日程、金曜夜間と土曜昼間のいずれかに参加いただきたい。

併せて意見提出用紙を用意したので、当日もしくは後日提出をお願いします。

（５）その他

[信楽図書館 神山清子展のご案内]

（６）閉会

副会長あいさつ

- ・自身が勤務する大学で開催したシンポジウムを通して感じたことをお話しする。
シンポジウムのテーマは、博覧会の楽しみ方。シンポジウムのポイントは二つあって、一つは19世紀半ばから世界各地で開催された万国博覧会について、その開催目的や展示の工夫、楽しみ方を考察するもの。もう一つは、その後の近代日本で開催されたさまざまな博覧会史を振り返りながら、当大学の前身校である工芸学校と国内外の博覧会との関わりについて紹介するというもの。
この関わりの歴史を通して、当大学開校のための資料収集に奔走されたことなどを知ることができ、当時の人々のやる気とパワーにはすごいものがあつたのだと、感慨深い。